



施設長トーク 「高次脳機能障害」への理解

5月20日に大牟田文化会館で「高次脳機能障害」のシンポジウムが開かれるそうである。「高次脳機能障害」という言葉を一人でも多くの人に知っていただき、当事者や家族の支援の在り方を考えてほしいということである。どうして大牟田で開かれるの？と疑問を持ったが、よく考えてみると大牟田三井三池炭鉱で炭塵爆発が1963年11月9日に起こっていた。そこでのCO(一酸化炭素)中毒後遺症の主症状が高次脳機能障害なのだ気がついた。だから大牟田なのだ。

ところで「高次脳機能障害」ってどんな症状なのか、なかなか知れ渡っていないようである。簡単に書くと、視覚、聴覚、味覚、触覚などから得た情報を認知することや、ものごとの達成のためにはどうしたらよいかなどの判断、人とのコミュニケーションなど様々なことが「高次脳機能」と言われているそうである。「高次脳機能障害」は、病気やけが(交通事故等)などで脳に何らかの損傷を受けた結果として現れる。例えば、新しいことが覚えられない(記憶障害)、気が散って集中できない(注意障害)、考えがまとまらず一日の計画が立てられない(遂行機能障害)、慣れた道で迷子になったり感情のコントロールがうまくできなかったりなどの症状が知られているが、外見からはわかりにくいことが多く、当事者や家族が困惑することが多いと聞き及んでいる。交通事故からの推計では、年間1~2万人程度の方に高次脳機能障害が合併しているとの指摘があるそうだ。葦の家が大切にしている「障がいがあっても、地域の中でふつうの生活の実現」をめざして多くの方々のご理解を得ながらえーる油山の仲間(通所ご利用者様)たちと共に、地域における生活の質を高めて行きたいと切に願う。



多機能型障がい福祉サービス事業所「えーる油山」管理者 小関 正利

なかな CHANNEL

～えーる油山入所式～

4/8(土)9名の仲間がえーる油山に仲間入りしました。いつもと違う作業室の様子に戸惑っている仲間、保護者の方と写真撮影している仲間…いろいろな形で、今年からここに通うのだと実感しているようでした。卒業校の校長先生や進路の先生、担任の先生、地域の方、ボランティアの方々に見守られながら、約1時間の式に参加することができました。これまで、特別支援学校で培ったものもあるでしょうが、1年先輩の仲間たちと一緒に参加するといった集団のちからも感じました。これから、仕事の場面や楽しみの場面で仲間同士たくさん笑い、時には議論して多くの経験を積み、豊かな時を過ごすことができるよう支援していきたいと思えます。(支援員 岡村)

◎職員紹介◎

今年3?歳、少し年上の新任職員「大坪 飛鳥(おおつぼ あすか)」です。若々しくパワフルな仲間たちに囲まれて、日々支援を楽しみながら学んでいます。



\* 支援部だより \*

えーる油山で仲間が織っているさをり織りを、形にしてくださるボランティアの方との出会いがありました。葦の家福祉会のお話をさせていただいていると、お父様が無認可時代の葦の家でサツマイモの苗植えをお手伝いして下さったことがおありだと伺いました。地域の中で続けてきたからこそその大切な出会いだなあと感激しました。これからもご縁を大事にしていきたいです。(支援部 岡村)

◇5月の予定

- 2日 ハローデイ春日店バザー
- 3,4日 どんたくバザー(城南区役所演舞台)
- 9日 ハローデイ橋本店バザー
- 11日 ハローデイ姪浜店バザー
- 18日 ハローデイ周船寺店バザー
- 21日 油山クリーン作戦、つくしんぼ祭り
- 25日 ボンラパス薬院店バザー